

「市村座狂言絵本」 「享保20（1735）年」（裏表紙見

返しの式亭三馬書入れ）

市川升五郎虚無僧の出 浄瑠璃名題 「尺八初音の宝船

江戸ふし大あたりのよし

江戸大夫藤十郎出勤

此狂言の時市川<sup>二代</sup> 団十郎鬼王役にて切落<sup>シ</sup>見物人の中より立出

中の間のあゆみに立止りて謡つくしのほめ詞三升自作大あたり

大評判にて江戸中もてはやせしことのよし伝聞り

此時団十郎四月中旬より病気にて漸十月全快此とし団十郎の

名は悴升五郎に譲り団十郎は父の幼名を取て市川海老蔵と改む

これより三升を升五郎に譲て海老蔵俳名栢莖と呼り

栢莖自ら病氣平愈の祈誓をかけて近江国多賀明神を念じ

けるに神力応護の験ありければ海老蔵の名を継き俳名は木性

なればとて栢莖と号く 木<sup>ハ</sup>百<sup>ニ</sup> 廿<sup>ニ</sup> 延<sup>ル</sup>と夢見しより栢莖<sup>ヲ</sup>

と付たるよし五代団十郎白猿向島の隠居にて予に語りき

其白猿も今は古人となりぬ 文化十二年乙亥秋 三馬